中國新聞 (木曜日) 第一万七千三百十一号 (一)
第六版（日刊） (四十五年五月四日第三種郵便物認可) 昭和十七年八月六日

中國新聞
発行所 合名会社中國新聞社
代表者 上川辰一
広島市中島本町一〇〇番地
電話 二一一番 二一二番 二一三番
七一五番 五一五番
一ヶ月前金帝国郵税共 金二円
三ヶ月前金帝国郵税共 金六円
半ヶ月前金帝国郵税共 金一円
郵税一ヶ月金三十銭
広告料 特別編輯増形右ノ倍額
増田幹吾

對日反抗基地化さば 印度進攻も止むなし

谷萩報道部長の時局談

四日名古屋で關西での第一聲を擧げた大本營陸軍報道部長谷萩那華雄大佐は、五日午後五時大阪ホテルで來阪、直ちに記者団と會見大阪入りそうそう温顔微笑のうちに眉宇に勝たすばやさを ひらめかせつゝ軍中印度問題と第二戰線、濠洲、重慶政權問題につき次の如く語つた【寫眞は谷萩報道部長】

印度問題

現在の印度の獨立運動に對し帝國は獨立を承認させて英國の立場から解決し、英印間の協約を締結させ、そしてその協約で現在の印度の狀態を改めてもらへばよいといふくらゐなのだらう、結局『獨立の名義』をとればよいといふ程度だと思ふ、ところが英國としては『名を捨てゝ實をとれ』といふやうなことは出來ないから、これで英國の權威を傷つけるやうなことは日本としても賛成し兼ねるし、英軍を駐屯させて對日反攻の基地としてゲリラ戰をやつたり、重慶支援や航空機の輸送による對日空襲の企圖または印度よりするビルマ攻撃の企圖などを伴ふやうならば、日本としてはこれを放置することはできない、本當の印度の獨立運動は印度外に住む印度人から印度内部へ呼びかけてゐるが内部でも動いてゐるが、その實體を把握することが困難なのだ

第二戰線問題

これを救ふ方法として一、米英から對ソ軍需資材の船舶二、第二戰線の攻撃が考へられるこれがためモロトフソ聯外相のワシントン訪問となつたが英國においてはソ聯がドイツと單獨講和する事をおそれて第二戰線をしてくれといひ米國では シベリアの基地を米に提供しろといふ要求を出したとか、これらの事情がスベり出て出來上つたのが この前の協約である、從つてもし米英がソ聯の要求を聽き容れないならば、あるひは戰爭の進展によつてソ聯が對獨單獨講和をするかも知れない、まだ有ゆる工作部門で反米英的になるといふことが豫想される、ここに第二戰線の興味が存する、第二戰線を編成するのはドイツの後方地區で重事的、政略的にもつとドイツに壓迫を與へ得る地點に相當多數の兵力を上陸させて、ドイツの對ソ戰力を減殺する方法が必要であるが、これには數個師團の兵力を要する、英國としてはその兵力をもつてゐるが、これを輸送するには殆ど二千萬噸の船腹を必要とする、現在英國からこの船腹を割くことは困難である、その上獨逸水艦の活躍の中を潜つて輸送するには相當の海軍艦艇も必要となるから、かなり困難な問題である、なほ英國としてはかうした上陸作戰に過去において失敗の苦い經驗をもつてゐるから、英國内における輿論は實行困難といふところであらう、しかし第二戰線を構成するとすれば英軍が反攻的に傾くとは米英としても非常に苦しいから暫く眼下に見られず、なんとか方法を講ずるかも知れないが、もし米英が第二戰線を構成するとすればどこかそれは一、フインランドのムルマンスク方面で、これは米英からの對ソ補給ルートの確保とフインランド内部の動搖を狙ふ點に効果がある

二、ノルウエー海岸だがこれはドイツの對英攻撃基地を覆滅するとともにドイツの鐵資源地を奪取することになる

三、デンマークの海岸に上陸すればドイツの中心地に近いところだからドイツに脅威を與へ對ソ戰線から相當數の兵力を割かすことができる

四、北佛海岸はデンマーク海岸と同じ効果のほか、佛國民を動搖させ政治的効果もある

五、ポルトガルに上陸することも同國が百年來英の同盟國である

第二線戰の興味

ソ聯の單獨講和も可能

重慶政權

果たして現在の情勢で本和な妥協が成り立つといふのは永久の平和成立を意味しない、なんとなれば重慶政權は過去五年間戰つてまた完敗せず、最後の勝利を信じてゐるのだから日本が重慶政權をなしてゐるかぎりは眞の平和は望めない、重慶政權の存在は東亞永遠の禍根で、重慶政權が覆滅すれば印度問題も早く片がつくし、また米英にしても重慶の問題に對し煩へ惱まされるやうなことはなくなるであらう、